

## 第10回 桑名市就学前施設再編検討委員会会議録

- 1 日 時 平成23年10月18日(火) 午後3時00分から
- 2 場 所 桑名市役所 5階中会議室
- 3 出席委員 学識経験者2名、自治会連合会2名、民生委員児童委員1名  
公立幼稚園2名、公立保育所1名、公立小学校1名  
保健福祉部長、教育部長
- 4 欠席者 私立幼稚園2名、私立保育園3名
- 5 出席職員 教育総務課長、学校教育課長、指導課長  
社会福祉事務所長、子ども家庭課長、同主幹  
学校・園再編推進室長、同主幹、同主査、同指導主事
- 6 議 事  
(1) 就学前施設の再編について
- 7 傍聴人15名

---

(教育総務課長)

皆様、こんにちは。本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。  
ます。

ただいまから、第10回桑名市就学前施設再編検討委員会を開催させていただきます。本日5名の委員さんをご都合で欠席ということでございますが、委員会要綱に基づき、委員会の成立には委員の3分の2以上の出席が必要でございます。本日11名の委員さんに出席いただいておりますので、委員会として成立していることをご報告させていただきます。

それでは委員長さんよろしく申し上げます。

(委員長)

それでは第10回桑名市就学前再編検討委員会を開催したいと思います。まず第9回の前回議事録の確認を行いたいと思いますが、すでに目通しだとは思いますが前回の議事録の方はこれでよろしいでしょうか。ご異議ないようですので、後ほど署名をさせていただきます。

さて、前回8月の第9回検討委員会から今日の第10回検討委員会まで、2ヶ月程経過しています。その間の経過等について、事務局の方からご報告をお願いしたいと思います。

(再編推進室長)

事務局から経過報告をさせていただきます。前回、第9回の検討委員会の場で委員長の方から「事務局を通して、今後も引き続き欠席された委員さん方へコンタクトはとっていただきたい」また、「折角の機会でもありますので、16人の委員さん全員が揃って議論をしたい」とのお話もあり、事務局といたしましても、退席されました委員さん方に、是非、検討委員会にご出席いただき、検討委員会の場で、いろいろなご意見をいただきたいということから、代表の方を通しましてお願いを申しあげてきたところでございます。そうした中にありまして、先日、教育部長と保健福祉部長が私立の5人の委員さん方とお会いして、お話を聞く機会がございました。これはあくまで、検討委員会に出席していただきたいという思いでお会いしたものであり、お話としては、退席の理由にもありました、17-2の資料が議論の中心でありました。

資料17-2はあくまでもたたき台であり、今後の具体的な議論に向けて、ご協議いただきたいということでもございましたが、(案)という表記もなく、十分な説明もないまま提示したことによって、あたかも決定事項のように捉えられておられたとのことでした。このように不信を持たれる結果になったことにつきましては、大変申し訳なく思っております。また資料17-1から17-2への移行にあたりましても、急ぎすぎたきらいもあり、もう少しじっくりと検討をいただく中で、お示しすべきであったと事務局と致しましても、反省をしております。事務局と致しましては、今後、検討委員会における資料の提出等、進行につきまして、委員の皆様が検討しやすい形となるよう、資料17-1の資料等をもとに慎重に対応し、円滑な進行につとめていきたいと考えております。

このような中で私立の5人の委員さん方は、市議会の議長さんともお会いになり、お話もされたと聞いております。また、9月市議会の教育経済常任委員会の中でも、再編検討委員会について取り上げられ、常任委員会委員長から、是非検討委員会へ戻っていただくよう努力するようにご示唆もいただいたところでございます。報告は以上です。よろしくお願い致します。

(委員長)

ありがとうございました。前回以降の状況について、今ご報告いただいた訳ではありますが、私学さんのお話の中で、資料17-1と17-2の違いについて色々ご意見をいただいているようであります。17-2に(案)という文字が無く決

定事項のように捉えたという節もあったということでもあります。この委員会では私の方からこれはあくまでも案であるとお話してはいたのですが、確かに送付された資料に（案）という文字がなかったことについては、その意味で私学さんの思いは理解できる所ではあります。

議会の議員さんからもお話があったというように、私としてもやはりこの状況は不自然であります。私としても16人の委員の皆さん全員揃って、議論したいという思いにはかわりはございません。事務局さんには大変ご苦勞ではあります。私立さんとのコンタクトを引き続きとっていただいたとの報告でございました。

もう一度確認だけさせていただきますが、私学の5人の皆さんが決定かとお考えになった資料の17-2であります。17-2につきましては、再度確認をさせていただきますけれども、委員会として確認出来た部分もございませぬ。後ほど今後資料の検討のためにお話をさせていただきますが、中学校ブロックを基本とすること、これはどういうことかと言え、最初の数回にわたって議論しました、桑名っ子という発想、私学の幼稚園、保育園、あるいは公立の幼稚園、保育所に通っていても、その多くの方が小学校に通い、中学校に通っていく。義務教育までは、桑名市の責任でやらなければいけない。保幼小中の連携という所から考えれば中学校ブロックで考えていくという点については、桑名っ子という議論をする中で、確認をさせていただいた話かと思ひます。集団を確保しなければならない。子ども達の社会性を育むための集団を確保しなければならない。4歳児の実施園を中心に今後再編を検討していく。独立園化を図る。ブロックによっては幼保一元化施設を検討するという事。これらの点については、確認をしていたはずであったと考えております。

ただ、具体的な公立幼稚園の数について、あるいはその登園方法について、預かり保育について、このような点については、今日お集まりの委員の皆さんの中でもそれぞれにお考えがありまして、現段階において決定事項としたものではないという事だけは明言しておきたいと思ひます。今後これらの点につきましては、じっくりと議論が必要となってくると思われますので、これらの点について、よろしくお願ひをしたいと思います。以上これまでの2ヶ月間の経緯についてご報告をいただきました。

早速議事の方に入っていきたいと思ひます。報告事項ということで、公立幼稚園の再編等に関するアンケートの結果につきまして、ご報告をいただきたいと思ひます。この経緯についてご説明申し上げますと、今回の検討委員会での検討事項というのは、保護者の皆さんにとっても大きな課題であるということから、保護者の意見についても、何らかの方法で検討委員会に反映させるべきであるというご意見もありました。私もそう思っております。保護者の方の意見をどのような形でいただくのが良いのかとうこと、前回、第9回の検討委員会でお諮りいたしまして、今後今回の再編検討委員会としてアンケートを実施するという事でありました。その

具体的な内容、対象等につきまして、前回検討いただきましたが、最終的には皆さんからいただいたご意見をもとに、私、委員長と事務局の方に一任していただきました。委員の皆さんからいろいろなご意見をいただきました。その意見を反映させる形で、公立幼稚園の保護者の方を対象にまずは、実施させていただくということでございました。今回アンケートの結果が、量的な分析の部分で、ある程度まとまりましたので、事務局のほうからアンケートの結果について報告をいただきたいと思います。

(再編推進室指導主事)

— アンケート結果についての報告 —

(委員長)

ありがとうございます。今、数字の部分だけ分析結果をご報告いただきました。9月30日までの間で、611人の方にご協力いただいた。ほぼ90パーセントの保護者の方にご協力いただいたこととなります。かなりの記述があり、一端だけご報告いただきました。その整理の仕方について相談を受けていますが、できるだけ原文を尊重して、ただ読んでいただくのが500人分ほどあるので大変かと思いますが、いずれこの委員会の議論にも反映させていただくために、今整理をしているところでもあります。今日は間に合いませんでしたが、いずれお配りしたいと思っています。結果としてご報告いただきました。この結果を委員会の結論として反映させるという訳にはいきません。アンケート結果で全部決められるのであれば、アンケートをやれば良いのであって、この委員会をやる必要はないのですが、保護者の方の意見として、声としては、重く受け止めながら、今後の議論の中ではいかしていきたいと思っています。この数字の結果ですが、委員の皆さんから何かご意見、ご質問ありましたら是非お出しただければと思います。

(委員)

各種団体がアンケートを実施しておりますが、ある所に聞くと30%回収があれば上出来であると言われます。600人ですか。私自身もアンケートを実施したことがございます。その中で、回収率としてはすごいかと思います。

最初の3頁で最も重視した点、2番目に重視した点、3番目に重視した点というところの、1番多いのが小学校との接続、自宅に近い、保育料が安い、これは切実な問題で、親としては当然のことではないかと思います。アンケートを見て感じたことですが、8頁では幼稚園の預かり保育の時間2時間ですが、417人ということで、ちょうど良いと。417人の内の子どもさんの体力を考えてこれぐらいが良

いのではないか。もう少し長くしてほしいというのは、自分の仕事の事から出てくるような感じがします。家庭の主婦の今の現在の経済状態から、もう少し働きたいと、非常に難しい部分ではありますが、そのように感じました。後1点ありますが、また後で述べさせていただきます。

(委員長)

ありがとうございます。私も首をひねっていたのが問12で、もう少し長くしてほしいとの自由記入で、その理由がどれくらいできるのかというところを見なければなりません。仕事を持つからという話があったということですが、幼稚園でありますので、その部分で言えば、就労を支援するのであれば、その為にはそれは保育園という仕組みもあるというところは押さえておく必要があるのかと思います。

(副委員長)

幼稚園というのは保育料が決まっている。保育園というのは親の収入によって保育料が変わる。

(委員長)

そこが大きな問題だと思います。その辺りで少し、長くしてほしいという時の考え方については考えていかなければならない。

(副委員長)

保育園の先生も、幼稚園の先生も、子どもたちに対する保育に関する準備というのは、お心は同じだと思います。保育園の先生は、子どもたちが長くいますので、とても大変だと思います。幼稚園の先生は、それなりに大変な部分も沢山あると思います。幼稚園は幼稚園であって保育園は保育園であって、時間的に幼稚園と保育園は違っていいのではと思う。長くしてほしいというのは単なる何かの形での預かり保育であり、預かり保育の時間が2時間というのは、私は十分であろうと思います。個人的には思っています。保育園ではありません。幼稚園でございます。

(委員長)

その所を、仕事を持つからという話と就労支援ではないというところは考えておかなければならない。他にどうですか。アンケート結果についてご意見、ご質問等ありますでしょうか。

(保健福祉部長)

折角いろいろなアンケートを取ってもらっているので、何と何の組み合わせが良

いのかどうかわかりませんが、必要に応じてクロス集計は考えているのかどうか。出来れば例えば問9と問10、問10と問11をもう少し詳細を掘り下げたい時に、クロス集計が必要では。

(委員長)

いくつかの項目について問10と問11のクロス。

(再編推進室長)

一度検討させていただき、出来ることでしたら、させていただきます。

(委員長)

クロスができる部分については、検討してほしいと思います。ただ、かなりの票数がないと、クロス集計は、していけばしていくほど、誤った結果がでてくる。例えば知りたいことから言うと、小学校区別にどうかというのは、知りたいことではある。分団登校の話など。ただこれを小学校区別にばらしてしまうと、例えば七和なら36票しかない。その中でどうだったか。他に2重クロス3重クロスかけていくと、どんどん票数が減り、一人答えたことが何十%になっていく可能性がある。ある程度票数のあるものを、中心にクロスというものは掛けていくことになる。そこはまた事務局の方と検討させていただきたいと思います。どの項目でクロスに掛けられるのか。他に何かご質問、ご意見ございますでしょうか。

(委員)

このアンケートは園を通じて配布、回収となった訳ですが、配布する時に、無理に集めずに、自然な形で渡していただいて、返ってきた分だけを回収してと、お願いしました。本当に90%近い回収率というのは、保護者の方の関心の高い表れであると思います。これはあくまで今公立幼稚園に通っている保護者の意見であるので、2時に子どもが帰ってくるのがOKの家の方の意見でありますので、全部の方の意見ではないということに注意して見ていかなければならない。

(委員長)

現状維持で帰って来る子どもの保護者である。

(委員)

問11の預かり保育を利用したい理由は何ですかということですが、仕事をしているからというのが179人みえます。3割近くは仕事を持ってみえるのに、幼稚園に行ってみえるのだと思いました。

(委員長)

保育所としてはどう考えますか。

(委員)

少し無理を試してみえるのかと思います。小学校と接続出来ているからという意見が出ていたので、その辺でおじいちゃんおばあちゃんなどは、小学校へ続いて行くのに、幼稚園を通らないと、という思いも結構桑名では強いのかという気がします。その辺で少し無理をされて、お仕事はしてみえるけれども幼稚園を選んでみえる方も中にはみえるのかと思います。

(副委員長)

公立の幼稚園で預かり保育を利用したい理由というのは、確かに、これはふたつ大きく山が出ているのが、納得は出来ます。幼稚園なのです。幼稚園と保育園の違いというのがまずあります。そこのところが前提である。

(教育部長)

先程の問11についてですが、私の見方は、179の中は、祖父母の方の支援がかなりある方だと思います。出来るだけ親さんには負担をかけたくないと仕事等から見合わせて意見されているのだと思います。

(委員)

幼稚園の保護者の方も、園児が4月5月を過ぎて、幼稚園生活に慣れ、親さんも家庭のことを考えて、午前中とか仕事を始められる。子どもが帰って来るまでには、きちんと家に居るとか、幼稚園などの行事に合わせて、仕事の日程をとったりとか子どもを中心に仕事の中でも合わせてみえます。仕事を後から始めようかと言われる方が多いように思います。そして何かの用事の時に、どうしても都合のつかない時に預かりをお願いしたいという時もあるのだと思います。

(委員長)

はい、どうでしょう。預かり保育の理由というのをもう少し、詳細にデータを分析して、言えるのかどうか。他の項目とクロスをかけた時に仕事をしているからというのが他のことと言えるのかどうかというのは、また、分析してもらいたいと思います。

(委員)

何処かの項目という訳ではありませんが、先程から出ていました資料17-2に

もあるように、中学校ブロックを基本として考えていく。中でも地域性を考慮するという部分はうたわれている。小学校区でいうと委員長言われるように、母数が少ないですので、あまり有効的な数字が出てくるとは思えませんが、中学校ブロックごとにまとめてみると、やはり、傾向は出ると思います。その傾向から、再編の材料になっていくのかと思えるので、そのような資料を頂けるとありがたいと思います。

(委員長)

今の重要なご示唆については検討していただきますよう。

(副委員長)

たとえば津市の場合は10市町村がひとつになりました。小学校区、中学校区というのも、ものすごく差があります。統廃合が課題になっている小学校もあります。桑名の場合はよくわかりませんが、子どもの数と幼稚園、保育園もすでにある就園している子どもたちの比率、そのような部分が、凄く微妙に絡んでくるのではないかという気がします。

(委員長)

それはあると思います。この地域で言えば多度と長島の部分と旧の市街地の部分と地域性はありますし、子どもの数の話、親の考え方、特に合併前の多度と長島であるとそこでどのような形で就学前教育をやっていたのか、今も反映されている部分ではあります。再編の時には加味していかなければいけないというふうには思います。中学校ブロックで一度集計してみるというやり方は今後の議論に大いに参考になると思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

アンケートについていかがでしょうか。他にありますか。アンケートについては、分析を改めてお願いしたい。フリーアンサーについては、いずれ、示していただくということにいたします。

今日の協議事項であります。就学前施設の再編についてということで、具体的な議論を進めていく上で、もととなる資料をご用意いただきましたので事務局から説明をお願いしたいと思います。説明を受けまして、今日何処まで議論するのかということですが、委員の皆さんから自由にご発言をいただきたいと思います。こういう状態でどうするという結論を今日出すということでは決してありません。今後、アンケートの結果もありますし、このような項目で検討した方が良いのではないとか、あるいは、どのように考えていけばいいのか具体的な意見をいただければよいので、これから再編の具体的な話をしていくための今日は前段階というところでご意見をいただければと思っています。それでは具体的に資料の説明をお願い

いします。

(再編推進室指導主事)

— 資料説明 —

(委員長)

いかがでしょうか。再編を行う上での基本単位を中学校ブロックにしましょうということですので、各中学校ブロックにおける各園の現状を詳しく説明いただきました。

公立幼稚園の適正配置につきましては、第1回のこの委員会で諮問事項の説明のところにもありましたが、園児数が減少していく中で、育ちを保障するための望ましい集団の確保が難しい状況になっている。だから今回の検討委員会で公立幼稚園の数、配置の見直しなどその方向性について、提言するよということこの資料をいただいた訳であります。今も説明がありましたが、各ブロックに幼保一元化施設も含めて、公立幼稚園は原則1園、けれども地理的条件とか地域性とかを加味して、ブロックによっては2園の所もありうるのではないかとということでありました。まずは資料の21、各中学校ブロックで現状と就園率をもとに、今生まれた人の数から、就園率で、これからの5年ぐらいの園児数を予測したデータを資料21で出してもらいました。この資料21についてどうでしょう。何かご質問、ご意見ございますでしょうか。

(委員)

この地図ですが、今日、私学のみなさんがいらっしゃらないということで、私学さんのメリットも考えて、ひとつエリアを何処か私学さんにお任せするとか、ここは私学さんで、というようなことは。そのような提案はどうでしょうか。

(委員長)

何処かを私学さんにお任せするのですと。

(委員)

地図を見ていても、この成徳中学校というのは深谷の上の方は、公立の保育園がありますが、下の方になるとほとんどが私立さんの分布が大きくなっています。例えば、このような所をひとつ私学さんに、このような所をお任せしたら後のこの会議もうまくいくのではないかと考えています。そのような所もひとつ私学さんに提案していただけたら。

(委員長)

ただここでは、公立幼稚園の再編の具体的な、最終的にはそのような話もしていくことになると思います。現状では、そうしようということはまだ結論として出す訳ではなく、全体を見ながら中学校ブロックの、今後の子どもの減少傾向で見て行きましょうということでもありますから、今ご発言のあった選択肢も当然、否定するものではありません。前提として議論をするという話ではないと思います。例えば成徳中学校ブロックを見る時には、ここを私学さんにお任せするという選択肢もありうるよねというお話ですね。

(委員)

そうです。

(委員長)

そのような見方もしていかなければならない。そのようなご意見であります。当然これで決めたという訳ではありません。いかがでしょう。この資料の21について何かご質問、ご意見ありますでしょうか。

(副委員長)

幼稚園とか保育園とか小学校というのは、就学前であれば、教育と保育の両面を先生方は心がけていただいている。保育園であっても幼稚園であっても、家庭における教育と教育だけではなく、保育の面での支援という役割を持っていると思います。そのような面でいうと、子どもがあまり多いよりはある程度の人数の方が、先生も子どもとか保護者への視野が深まりますので、それは大変ありがたいですが、今少子化という時代の中で、子どもたち同士が群れて遊ぶという姿というのが街では見ない。幼稚園だから小学校だから中学校だからなのです。中学校になると、高校の入試とか高校によっては、個性が明確化されてきますので、仲間同士で群れて学ぶとか遊ぶとか、遊びながら学ぶとかそのような部分というのは小さい頃から子どもたちの普通のことに習慣づけてあげる必要があると、私は思います。どちらかという海外へ行っても子どもたちが群れて遊ぶ姿というのは、アメリカやヨーロッパではよく見かけます。けれども日本では子どもが群れて遊ぶ姿はあまりない。親が幼稚園や保育園へは車で送っている。子どもが歩いて通う姿はまず見ません。

そのような中で桑名の場合はここは名古屋に近いというところで、親さんの教育というのも熱心な傾向がかなり強いと思います。中学校ブロックというのは、義務教育が仕上がる時期でもあります。仕上げの時期に桑名として、中学校ブロックでどれだけのものをしていくのかという目安があると思います。教育委員会としても、各それぞれの中学校としても。その中で、その前では小学校、その前には幼稚園保

育園です。就学前教育としての、幼稚園、保育園というものを、まとめて小学校、中学校そういうもので考えていく場というのはここだと思います。この場しか今のところないのかと思います。私としては個人的にはここで、そういうことも考える必要があるのではないかと思います。皆さんのそれぞれの意見を伺いながら資料を伺いながら、私なりにいろいろ考えているところであります。

桑名の子どもとして中学校卒業までに、何の力をどれだけきちんとつけなければならないというのは、市民の人々に納得していただければ小学校の統廃合、幼稚園の統廃合、保育園の何とかだと言っても難しいと思います。皆さんに納得してもらおうと、漠然とした言葉しかないかもしれませんが、桑名として、これをしたい。これは公立も私立も同じである。そこのところがまずないと、何年も何年もかかっても、なかなか統一するのが難しいと思う。だから小学校とか公立も私立も含めた幼稚園、保育園みんなで、考えていただきたい。そのようなことは、3回前ぐらいから私の頭の中にあった。

(委員長)

ありがとうございます。それが最初の頃に確認していた桑名っ子のお話をどれだけ到達目標のような形で具体的に示せるのかということになるのかと思います。教育部長何かその辺り、最近は何処でも教育委員会の活動もそうですし、各学校も経営方針を示して、そして教育委員会の評価ということでも、数値目標を示したりしていますが、そのような所で、我々が今後、中学校ブロックで考える時に桑名っ子が中学校を卒業の時に到達している、望ましい話、そのために就学前教育はこういう役割を果たすのだという所までの何か参考になりそうな議論というのは現状では何かありますか。

(教育部長)

その答えにはまだ力量不足の所がありますが、副委員長、委員長がおっしゃられたように、桑名では桑名っ子育成方針ということで、その中で、中学校卒業段階で、どのような子どもたちに育てるのかという理念をやっています。それをこの場で議論していくとなると、少し抽象的になりますので、この就学前の段階で、私立さんと同じだとは思いますが、子どもたちが、指示待ちではなくて自分たちが行動出来る。夢を持ってそれを実現していくような子どもたちに、後伸びする教育とか、生きて働く力といわれますが、そのような部分を大事にしていきたいということは考えています。

これはこの間、私立さんとお話した時も「その通りである」との話でありました。ここの委員会のキャッチフレーズにもありますように「子どもの笑顔」そして、「保護者の安心」というのはそこに繋げていけるひとつのキーワードではないかとい

う確認は出来ていると思います。ただもうひとつの方向で私立さんとお話している中で、マネージメントの話も当然切り離せないという状況であります。委員が言われた部分も含めて私立と公立、幼稚園、保育所は共存、共栄出来るような部分で考えていくことがひとつ大事な視点と考えております。

(委員長)

なかなかすぐという話ではないと思いますが、それを何らかの形で数値で考えていく場というのにも必要になってくるだろうと思います。今この資料でいただいている中で考えると、子どもたちの社会性を育むという事からいうとある程度の集団の確保をしないといけない。資料21をこの中学校ブロックで各園見ていった時に、今どのような状況に置かれていて、今後就園率というものを見ていくと、どのような状況になっていくのかということについては、今後の5年間については、データで予測されています。これは、今後再編を考えていくに当たって、重要な情報であろうと思いますし、ある意味具体的なイメージをこの情報で描けるのではないかと。資料の21について何かご質問ご意見ありますでしょうか。

(委員)

この資料を見せていただいて、すごい資料だと思います。客観的にここの公立幼稚園を残すと良いのではないかと思える所が、いくつかあります。お聞きしたいのは、この21の資料についての意見というのは、具体的に何処のブロックで、何処が良いのかという話ではないのですか。

(委員長)

当然のことながら、最終的にはそこまでここで議論しなければならないだろうと思います。今日この資料で客観的に判断してしまうという話ではないと思います。最後に宿題は皆さんにお出ししたいと思っていました。資料の23で各中学校ブロックで、例えば多度ブロックで( )があります。全部の所に( )が入っています。だいたいこれぐらいの園で良いのではないかという数字を入れるというような、宿題があっても良いのかと思ひまして、今日のこの資料をご覧いただいて、次回辺りから具体的なブロック別で、例えばふたつにした所は何処なのかという議論もしていかなければならない。その為に、今、人数の話資料21であります、具体的に何処を残して、何処を廃園にするのかという時の評価項目になるのが、資料22だと思います。この資料22で、この項目でよいのかどうか。もっと付け加える項目があれば、大至急事務局に作業してもらわなければならない。

(委員)

その際に駐車場のスペースが大事だと思います。その辺りも載せていただくとありがたいと思います。

(委員長)

駐車場のスペースが確保できるのかどうか。今後の判断の場合非常に大きい話になります。資料22についても、ご意見をいただいている訳ではありますが、いかがでしょうか。

(教育部長)

資料22のお話ですので、事務局の方からも話がありませんでしたが、考えておりましたのが、駐車場のスペースというのは、非常に大きな意味を持つてくるだろう。バスの送迎ではなく、保護者の送迎となると、どうしても重なるといった状況になってくる。数量的な評価がなかなかここではできない。例えば駐車場に何台おけるのかという表記をしてもどうかと話をしていました。他に例えば地理的な条件で、アクセスの問題が非常に問題になってくる。近々で言えば員弁川、アクセス関係で橋がいくつもかかっている、朝夕だとその橋を渡るのに20分ぐらいかかるという状況の所もある。そのような地理的な条件も加味していただかなければならない。数量的にはここには表せないという状況があります。

広い範囲の校区と狭い範囲の校区があります。例えば長島ブロックとか陽和ブロックにつきましてはかなり広い。多度ブロックもそうですが。それとは別に、光風ブロック、陵成ブロック、光陵ブロック辺りですと、近い所にありますので、そのような部分も、この評価項目には表れてきませんが、是非考慮していただきながら、再編をお願いしたいと思います。事務局の方が空欄にしてありますので、ここについては、もう少しこのような視点が必要ならば書きくわえたらどうだろうかという議論もしていただくとどうだろうかと思います。

(委員長)

そうですね。これから評価していくに当たっての、資料22の項目で、これを付け加えておけばよいのではないかというものが何かあれば是非いただければと思います。どうでしょうか。

(委員)

資料21の感想であります。中学校ブロックの統廃合というのは大変難しい問題と思っています。委員からお話がありましたように、ブロック別では非常に面積が大きいとか小さいとか、川で分断されているとか、道路交通網とかそのような面で多岐に渡っていますので、そのような要素を十分勘案してもらい、地理的条件、

地域性、このようなことも十分考慮し、客観的に進めていただけたら、ありがたいと思います。

(委員)

今、言われた通り私もまったく同感で、この資料を見ますと、21-1から9まで、何処のブロックに関しましても、少子化が進んでいるということ、現在24園ありますが、統廃合という形で、本来なら2クラスあったほうがいいのではないですかとか、いろいろな意見があって、アンケートの結果でも2クラスが良いとか、いろいろなことが出ています。単純に人数を9ブロックで割ってということではなく、あまりにも遠い所は、前回の時には廃止とか禁止とか出ていました。それは無理ではないのかという意見もありました。私自身も分団登園の廃止についてはどうなのかという質問をさせていただきました。いろいろ多岐に渡って出てくると思います。それぞれが1園というのはおかしな話である。必要な所は2つあるいは3つあってもいいのではないかという考え方と、子どもの人数を加味して、進めていきたいと考えています。

(委員長)

これらを加味して、ブロック別にここをこのようにしていきましょうという議論を次回ぐらいには、具体的にしていきたいと思います。そのためにはこの情報があるというものがあれば今の地形、交通条件というのは、その辺りについてはいろいろ意見をいただきたいと思います。数字で表せられないものについては、是非ご発言いただきたいと思います。数字でこのような数字があると良いのではというものがあれば、評価項目案として追加していきたいと思います。何かありますか。

(副委員長)

数字などでいくと非常に具体的ではあると思いますが、そのような具体的なことも必要であるし、あるいは雲をつかむ話かもしれない。保育園と幼稚園というものが、4歳5歳でだぶる。5歳だけでだぶる地区があります。幼稚園の場合は子どもが少ないから統廃合だとか、そのようなことになってくる。地域の子どもは一緒です。

今、全国的な傾向としては、幼稚園と保育園の一元化、一体化というのが大きな話題になっています。幼児教育といっても保育所も勉強して、幼稚園も勉強するというのが先生になる人のベースである。そうなってくると、幼稚園の先生も保育園の先生ができる。資格は国家試験をとればすぐとれる。幼稚園の先生なら受けたらすぐ通る。通らない幼稚園の先生はいないと思う。それは資格の問題ではなく、行政として考えなければならないのは、小学校に入る前の枠組みだだと思います。小学

校からは義務教育になります。それまでは、義務教育ではない。義務教育ではないが義務教育で受ける小学校の先生は、教育を考えて行く時に、ここは教育委員会ですから、小学校の先生たちのことは100%つかんでいます、そこにくる子どもたちの前段階が、ここは桑名市就学前という言葉に表れていると思います。教育委員会の考えとして。そのような視点で考えていく場合には地域の子ども、今幼稚園の統廃合と言ってますが、ここの地図に載っているように、保育所も載せていただいている。ここには保育所がどれだけというのは載っていない。私はもし可能であれば中学校ブロックの保育園と幼稚園、それを考えて、そして就学前の施設再編整備の委員会としては、ここで考えたものは、小学校の方をお願いします、如何でしょうか。そのような流れというのが、1番基本ではないのかと思います。私はそのように考えておりますが、如何でしょう。

(委員長)

保育園の存在というのは、当然就学前施設では無視できない。公立幼稚園の再編をターゲットにテーマにしているので、影が薄くなりがちである。当然のことながら、就学前施設ということで、一緒であるので、ブロックごとに考える時に、保育園の動向というのもデータとしてこれに加味できるのかどうか。その点はどうか。

(副委員長)

少し付け加えさせていただくと、公立幼稚園というのは4歳5歳、ただ私立の場合3歳からやっているところが多い。それ以前の預かり保育とかやっているところもあると聞いたことがあります。そうなってきた時に公立がどうするのかとなると、本日欠席であります、なかなか難しいことがある。それを話合いで決めるというのは非常に難しいと思う。桑名の子はひとつだということ、大前提で考えていくという委員会としての決断をしていただかないと、私たちは寂しい。欠席してみえるというのは非常に寂しい。ご意見があればここで言っていたきたいと思います。我々の言うことが全て納得していただけるかどうかというのは、やはりここでの話である。我々としては就学前として、幼稚園も保育園も公立も私立も含めて広く考えていく必要がある。

(委員長)

この数字でいうと、この就園率の低い所は、裏返しとしてその地域の子どもが保育所と私立の幼稚園に通っている子どもが多いという数字の裏返しである。大まかな傾向は掴めますが、特に保育園との関係で、その地域に子どもがどういうふうに行っているのか、行きそうかというのはデータとして、出せそうですか。

(子ども家庭課長)

保育所、保育園に関しましては、全市的になりますので、中学校ブロックで考えるというのは難しい。過去の園児数、現在の園児数というのはデータとして出せますが、将来のとなると難しいと思います。

(委員長)

そうすると、就園率が裏返しで、100から今の就園率を引いたものが、他の保育所とか、あるいは私立の幼稚園にいてる子どもである、というデータの把握の仕方しか今の段階ではないということが良いのでしょうか。どうでしょうか。特に資料22の項目のところで追加しておかなければならないところがあれば。

(委員)

項目の追加の話ではありませんが、現状の就園率というのは、判断していく上かなり大きな数字であるとは思いますが、現状の状況における就園率ということになります。再編するにあたって、預かり保育であるとか、複数年保育という話があがっています。もしこれが実施されたら、それぞれの地域で就園率は大きく変わってくると思います。さほど変わらない地域もあるかもしれませんが、大きく変わる所もきっと出てくるだろうと思います。そう考えると、50%以上の就園率がある所は残して、そうでないところは少し考えようというような単純な話ではないと思います。

決してここの数字には出てきませんが、子どもの笑顔と保護者の安心というのは、絶対外せない要素であるとなると、家庭の経済状況とか考えた時に、1番近くの、アンケートにありましたが、自宅に近いからという理由で公立幼稚園を選んだという方は大変多い数である。ところがそこにも通えれないとなった場合、次に近い所、けれども定員を設けてそこも外れましたとなった場合に、どうになってしまうのかということもあります。その辺りは数字に表わせない。あくまでも公共サービスのひとつでありますのでその辺りも考えていくというスタンスもほしい。

基本的な考え方の中に示されていましたが、幼保一元化施設を3園を目途に考えるというのがありました。それを何処に持っていくのか。前回の議事録を見ますと、具体的にどの園を残して、どの園を失くしていくのかというような具体的なビジョンを次回では示してほしいとお話をさせていただいて、委員長も「そうですよね」とこのことについて事務局から具体的な回答はありませんでしたが、そのような方向で8月の委員会は終わったはずです。今回の資料を事前にいただいた時に、この続きはないかと思いました。いろいろな条件をもとに、検討する委員はこの委員です。

この委員の中で考えていくということは、筋からすると当然だとは思いますが、なにしろたたき台となるようなものが必要になってくる。私たちはこれ以上の情報

はない。事務局はこれ以上の情報を持ってみえますよね。たたき台になるような案はほしい。幼保一元化施設はどうするのか、中学校ブロックに1つというような案もありますが、全くの個人的な意見ですが、大山田の光陵ブロックと陵成ブロックについては、例えば、ここに既存の園舎を使うのではなく、幼保一元化施設をひとつ建てますよと。それを就学前施設再編の大きな目玉にしてやるんだというアイデアもあって良いのかと思うのです。そのような事も含めて考えていくなら、個人レベルでいろいろ言うていくことも大事ですが、2月に最終答申を出そうと思うと間に合うのかというのが正直な感想であります。いろいろ言わせていただきましたが、ある程度の具体性を持ったたたき台はほしいと思いました。

(委員長)

確かに、我々がここで検討するのであれば、地形地物の話や駐車場の話も含めて、この表でいくとすると、何処を失くして何処を存続させるのかという議論は出来るであろう。ただ全部つぶして、ひとつ大きな施設を作るという話がありうるとすれば、なかなかここでは議論としては出てこれない。桑名市として就学前の施設のひとつとして、幼稚園を今後どうするのかという時の具体的な方針を反映させているような、たたき台が示されても良いのではないか。そこを今後議論していくのか。

確かに8月の委員会で事前に今回示させていただきたいという話をしていたことは確かである。何分このような状態であるので、もう一度、今後、評価項目であるとか、今後の子どもの動向というところで、再編の具体的な方向性というところで、一回議論いただこうという形。ある意味足踏みしているというのは事実である。

今回はここで議論をさせていただこうということで、今日の資料を用意させていただきました。前回の委員会で私が具体的に申し上げたところからいけば、若干期待外れというところがあるのかもしれませんが。具体的な再編の部分については、私学さんも含めてご意見をいただきたいということもありましたので、持ち越しにさせていただいた部分でもありますし、それが2月の答申に間に合うのかどうか、多分次回ぐらいからもしもご参加いただくのであれば、ご参加いただかないと、2月の答申というのは、その意味でいうとこのメンバーでやっていくということにならざるを得ないというのも確かであります。ぎりぎりまでは、私としましても冒頭申し上げたように、16人で答申を出したいと思っておりますので、そこまでは待ちたいと思っています。

今日はこういう形ではありますが、今日いただいた意見をもとに、次回どのような形でこの再編案を考えていくのか、中学校ブロックで検討していくか、全市的なものをどういうふうに検討していくか、それについてはまた、事務局と検討していきたいと思えます。この委員会としてはこの資料の23で、今日の資料の21～23をベースに、皆さん地域をよくご存じなので、ここは残念ながら廃止していかざる

をえないとか、ここは存続させていくのかということについては少し考えていただきたいと思います。そうすると廃止しただけというのはあまりにも無責任でありまして、その施設をこの地域であればどう使えば良いのか、更地にしてしまった方が良いのか、あるいはこの施設を学童保育で活用していくとか等、この委員会の提言の中には盛り込んでいかなければならないということも絶対必要であると思っています。そのようなことも含めて少し考えていただければと思いますし、委員からたたき台をとのお話もありました。それらについても少し事務局と、検討させていただきたいと思います。他にどうでしょう。

(委員)

今回、公立だけのアンケートでございました。前回も私学さんが居なかったので居ないところでどうするのかという話もありました。私学だけのアンケートはとれるのでしょうか。

(委員長)

それは私学さんに聞いてみないと。

(委員)

もう1点 副委員長さんも言われたように、こちらも入り、本来ならこのような会議が必要ではないのか、私自身も当然そのように思いますが、いろいろな形で自分たちの意見が通らないからという観点で、無理が通り道理が引っ込むというのはという形で反論させていただきました。基本はそれぞれの委員が、委嘱を受けた時から責任を持っています。責任を放棄している中で、事務局の方も妥協するのではなく、責任をしっかりと全うするような言い方で出席をしていただくような言い方をして下さい。お願いします。

(委員長)

ありがとうございます。私学さんもそれなりの思いがあって、前々回席を立たれた訳でありますので、それについては、私も責任の一端を感じていますので、復帰していただいたら、そこで一度ちゃんと私も責任の取り方を考えなければまずいだろうと思います。

(委員)

民生委員をさせていただいていますが、青空出前保育というのが、月に2回公園にでていますが、城東地区の方が多い。立教、城東、日進の辺りに出前保育、貝塚公園で保育士の方にお世話していただいています、そこへ来ていただくお母さん

方の意見を聞くのですが、なかなかしっかりとした考えの方が多くて、今回城東は来年度は休園ということで凄く不安を感じています。休園になるからどうしたらいいのか、何処へやったらいいのか私たちにお話されます。城東地区というのは赤須賀地域の方と地蔵地区の方と凄く結束力というか地域性が高い。何をするにしても、地域が結束してやるということで、お母さん方も地域で行事がある時でも、子どもを安心して、手放せるというような感じで、ここが崩れるとだめだと言ってみえるので、具体的にこのようなことを言って良いのかどうかわかりませんが、保育の一元化の問題ですが、この辺りでひとつ事務局の方でも考えただけならと思います。

(委員長)

今日の所は具体的な話というよりも、今後このような形で評価をしていって、再編の具体的な姿を次回以降ブロック別に検討していって、ブロック別に検討するだけではなく、全市的に幼保一元の話でありますと、今お話していただいたように地域性というのもありますし、それをどうするのかということも次回以降ここで議論していきましようということで、その前提となる、情報をみんなで共有させていただいたところになるのではないかと思います。もう少し具体的なものもあればということでもありますので、今日の資料とか説明で、ある程度の姿は見えてきたのではないかと思います。

次回どのように進めさせていただくのか、今日の議論をもう一度精査して、事務局と相談させていただき、ずっと復帰をお願いしていますので、復帰をしていただければ、また資料の方を整えさせていただき、協議していきたいと思います。足踏み状態で次になかなか進んでいけないというのは、私自身もいらいらしていると言えいらいらしています。2月には何とかしなければならない。ひょっとすると2月をもう少し延ばさなければならないかもしれない。出来れば2月までの間に、成案を得てきちんと諮問事項に対しては、答えていきたいと思っています。

今日の所は情報を共有して、おおよその姿についてみなさんにご理解をいただき、具体的に検討しましょうと、その検討の仕方については、たたき台ベースでいくのか、資料の出し方については事務局とも相談したいと思います。

(委員)

預かり保育のお話をさせていただき、2時間が良いという意見が出ていましたが、2時間というと保育所の通常保育の時間です。保育所は8時半から4時までが通常保育ですが、パートでお仕事をされている人が、4時まで預かり、4時に降所されるという形になるのですが、だんだん4時以降8時半前の保育が、どんどん多くなってきています。4時以降も本来は就労時間の5時15分を過ぎる長時間勤務に当たる職員は4時～5時15分までは当番から抜いてあります。私の園でも4時～5

時15分も当番の職員が入らないと長時間の子どもが多くて回らない状況になっています。その間に次の準備とか書類の整理とかありますが、時間内に出来ない部分もどんどん多くなってきています。

幼稚園さんがアンケートで30%ぐらい仕事をしている人がいるということで、4時まで預かり保育になると、当然幼稚園に流れる方も出てくるのかと思います。今日もお話聞かせてもらって祖父母にお世話いただき、仕事をしている人もいるということですが、通常保育の方が幼稚園に流れると、保育所の方は長時間の子どもらばかりになりどんどん自分たちが苦しくなるなど不安になっているところでもありました。そのような状況もでてくるんだということも頭においてもらいたいと思います。幼保一元化とか何処と何処をくっつけていくのかという部分も考えていただけたら良いと思います。

#### (副委員長)

幼稚園の場合は公立は保育料が同じです。保育園は公立でも私立でも保護者の収入によって、保育料がかわります。公立の幼稚園はやはり安い。保育所に近く保育時間をするというのは、幼稚園の方が得である。そのような部分というのは、やはり、保護者としては、消費者という立場もありますし、教育でありながら、お金を払います。そのところはきちんと区別しないと保育所は教育委員会ではない。福祉であります。就学前教育というのは、幼稚園も保育園もひとつとして考えている立場なので、その辺の区別、幼稚園は幼稚園であるべきだし、保育園は保育園の使命があります。保育園は幼稚園の使命はないのかという保育指針を読んでもらったらわかるように、幼稚園の教育要領の中、それは、保育指針すべて入っています。それプラス保育は長くあるからというのが保育所です。幼稚園が保育時間を長くすると、保育料がどうなるというのは、これは非常に保育所に対しても、桑名市としてはひとつですので、その辺の整理は事務局の方できちんと出していただかないと、委員会で出せる問題ではないと思います。お金のことですので。

幼稚園の先生の給料と保育園の先生の給料は違うのかもしれない。全部クリアな感じで資料として出てこない教育委員会と福祉部からいろいろなものをいただかないとなかなかこの問題は我々の委員会だけで、こうしたらいいのではないですかと出すのは無責任かという気がしています。

#### (委員長)

働き方の問題というのが、ひとつは子どもの保育をする。教育の場面でも保育所でもそうありますが、子どもと向き合うという観点で言うとそれをどう考えていくのか。

(副委員長)

桑名の子どもみんな一緒です。幼稚園でも保育園でも私立でも公立でも皆一緒です。小学校も公立も私立もある。だから桑名はいいのです。桑名の教育というのはレベルアップすれば、いくらでも桑名に来てくれます。桑名の良さはこれだと思っています。桑名の教育というのはとても魅力がある。立地条件もあるし。山の方も自然全てが恵まれています。

(教育部長)

私も非常に迷いがありますが、委員の話を聞かせていただき、検討委員会で、例えば預かり保育の時間とか1回の料金をこと細かく設定するということについてはいかがなものかと思えます。副委員長が言われたように、オール桑名ということで考えていくべきだと思いますし、そうなった時に必然的にその調整、どれくらいの預かりにしたら保育所さんに影響ないのか。私立さんとの調整はできるのかと実施計画の中で考えていく部分だと思います。あまりそこまで踏み込んでいくことはどうかという思いを持ちます。みなさん議論いただければと思います。

(委員長)

はい、またそこも含めて、これも市の考え方でありますので、福祉の部分とどういうふうに調整していくのか、私学さんとどう調整していくのか。大きな問題でありますので、そこについても明確に実施計画でやりますよということであれば、それはそれでいいと思います。それも検討させていただきたいと思います。本日の報告、議事といたしましては、以上ということで、よろしいでしょうか。

(再編推進室室長)

長時間熱心なご協議ありがとうございました。事務局の方から次回の検討委員会の予定をお知らせさせていただきます。次回は11月15日(火)15:30よりお願いしたいと考えております。場所につきましては、調整中でございますので追ってご連絡させていただきます。

(次回日時については、11月14日(月)15:00よりに変更)

(委員長)

それでは第10回桑名市就学前施設再編検討委員会を終了したいと思います。

17時00分終了

以上会議の顛末を録し、ここに署名する。  
委員長